

補助金等支出明細書

(様式)

1. 補助金等の名称	平成18年度 科学研究費補助金 研究成果公開促進費 研究成果発表(B)		
2. 課題名	日本物理学会九州支部公開シンポジウム物理教育とその周辺 V (極限を探る)		
3. 事業の目的及び内容	<p>(1) 目的</p> <p>ゆとり教育の影響もあり、学力の低下が問題になっている。今後大学教育は従来の考え方、方法では難しくなることが予想される。現状を把握し、高大連携を深めることを目的として、今回物理教育を取り上げた。改定された新しい「高校物理II」では、先端分野を広く紹介している。これらの現代科学、現代物理に触れることは物理が単なる、受験のための暗記科目ではないことを理解させるためにも重要であろう。本シンポジウムでは、物理教育の周辺として、「極限を探る」をテーマに「環境としての極限、物理学が対象とする物質としての極限」という観点から現在の動向に関心を持ってもらうことを期待し、企画した。高校生にはこれを通じて、物理に対する興味を深め、期待感を膨らませてほしい。又本シンポジウムを通じて、高校の先生方からも、最新の基礎科学の現状・魅力を高校生に伝えていただきたい。</p> <p>(2) 具体的内容</p> <p>1)「高校物理という世界」足利裕人(鳥取工業高校)学習指導要領のもとに、編集された日本の物理教科書の特徴、総時間数が減少した現在の学校現場の状況など多岐にわたり、お話いただいた。改訂された教科書については、物理IIの接続上の問題、IIで選択項目を学習する上での問題点が指摘された。2)「極限環境における新しい物質像」巨海玄道(九州大学)低温、強磁場、高圧という極限環境で、物質の示す多様な振る舞いについて講演された。特に圧力が誘起する磁性・非磁性転移、圧力誘起の超伝導について、最近の測定結果、さらに今後、高圧下での新しい超伝導相の探索計画の紹介があった。3)「電子顕微鏡で見るミクロの世界」松村晶(九州大学)電子顕微鏡の仕組み、種類等基礎的なところから、最先端の研究結果まで紹介があった。透過電顕による元素状態解析、電子顕微鏡による構造状態解析、トモグラフィ法による3次元組織解析、磁性体の磁区構造を解説され、今後の新規超高压電顕開発計画が示された。4)「星での核融合速度の測定と地震被害」相良建至(九州大学)星での炭素とヘリウムの核融合反応は12C/16O比を決め、超新星爆発のシナリオに関係する重要な因子である。この未測定に非常に困難な実験について講演があった。いかに誤差を小さくし、測定精度を上げるか、九州大学の取り組みの紹介があった。その後、昨年の「博多湾西方沖地震」の被害状況、それから得た教訓、地震対策、避難訓練などの必要性が説かれた。5)各講演について、活発な質疑応答があった。</p>		
4. 交付先公益法人の名称	社団法人日本物理学会		
5. 交付実績額			790千円(A)
6. 補助金等における管理費			
(1) 人件費			0千円
(2) 一般管理費			0千円
(3) その他の管理費			
	内容	金額	
			千円
	合計		0千円
	合計		0千円
7. 外部への支出			
(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
	支出内容	支出先	金額
			千円
	合計		0千円(B)
(2) (1)以外の支出			
	支出内容	支出先	金額
	会場借料	九州大学	33千円
	消耗品費	文泉堂他	171千円
	謝金	講師他	80千円
	その他	サガプリンティング他	506千円
			千円
			千円
			千円
	合計		790千円
8. その他			
	内容	金額	
			千円
	合計		0千円
9. 再補助・再委託等の割合			0%(B/A)